

DIAの過去と現在：半世紀に亘る歩み

サリドマイドの問題がグローバルに蔓延しているとみなし、世界中からの協力的な活動を促進する組織が必要であると考えた30人の製薬専門家、メディカルライター、学者によってDIAは設立されました。

1964年



DIA

DIAは、臨床研究の方法論のアプローチを検討することにおいてリーダー的役割を果たすようになり、国際会議を開催し、国際登録書類のために各国・地域での慣行や必須要件に関する情報の流れを促進するようになります。

1980年代



DIAのメンバーシップは、ラテンアメリカ、カナダ、韓国、中国、インド、中東、シンガポールでの活動を含め、世界80カ国以上に拡大しています。DIAは、Drug Information JournalをTherapeutic Innovation & Regulatory Scienceとしてリニューアルしました。

2000年代



1962年

議会は、連邦食品・医薬品・化粧品法に対するKefauver-Harris改正を制定し、製造者に医薬品の有効性を上市前に証明し、市販後は重大な副作用を報告することを義務づけました。

1970年代

DIAは、添付文書における具体的かつ理解しやすく正確な情報の必要性についての関係者会議を開催し、DIAの査読を受けた学術誌であるDrug Information Journal (DIJ) を発刊しました。

1990年代

DIAは、国際的な成長と拡大の時期に入り、ICHと医薬品の科学的評価を支援し、米国、スイス、日本に正式なオフィスを設置しました。DIAの会員は、臨床研究で使用される世界データ標準を定義するコミュニティを形成し、これは臨床データ交換標準コンソーシアム (CDISC) の成立につながりました。

現在

DIAは、トランスレーショナル・サイエンスおよび医学、レギュラトリー・サイエンス、患者さんとの取り組み、バリュー&アクセスにおけるソート・リーダーシップとしての立場を明確にしています。DIAはInternational Council on Harmonization (ICH) のオフィシャル・トレーニング・パートナーとして認可されました。DIAは中国がICHの正式なメンバーとして参加することを支援しています。インドではGCP会議、中国ではDrug Discovery Innovation会議、日本では医療機器開発シンポジウムなど、ニーズに応じたプログラムを開始しています。